

当社は、HS財団動物実験認証施設です

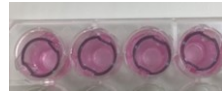


in vitroによる皮膚刺激性試験の代替法

皮膚刺激性試験の代替法はすでにOECD439で紹介されており、そのデータもそろっています。NBRではヒト培養表皮を用いたin vitroの皮膚刺激性試験も行っています。

<キット>

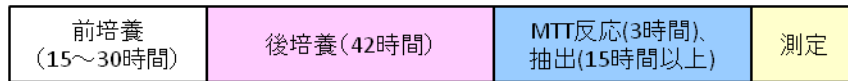
LabCyte EPI-MODEL24
(ヒト培養表皮:株J-TEC)



<試験方法>

ヒト培養表皮に検体を適用し、42時間後の生細胞率から検体の刺激性の有無を判定する。

<スケジュール>

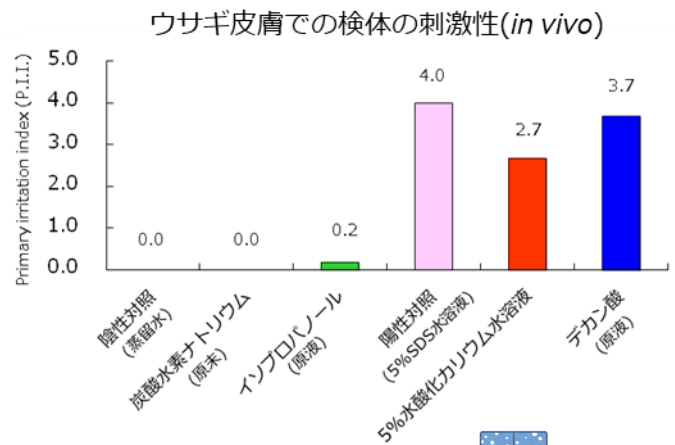
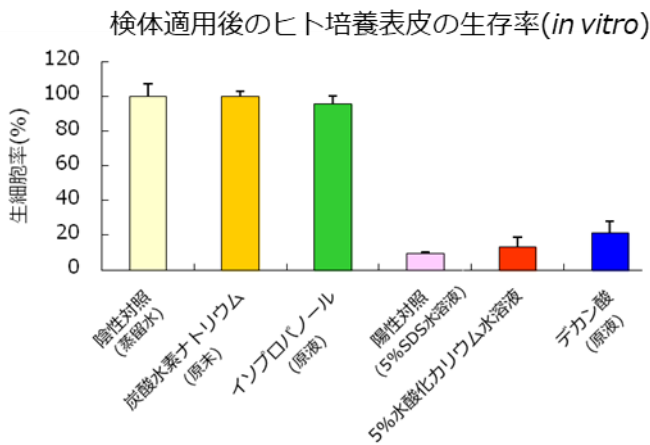


↑
検体の適用



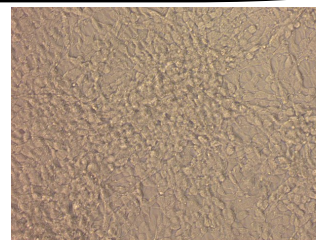
評価：陰性対照と比較し、生細胞率が50%以下を刺激性有り判定する。

<背景データ>

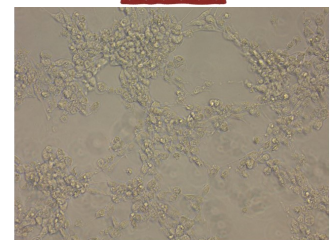


現在開発中のセルベースアッセイについて、ご紹介します！

- ヒト神経芽細胞腫 (SH-SY5Y細胞) を用いた
パーキンソン病モデル
- ヒト神経芽細胞腫 (SH-SY5Y細胞) を用いた
アルツハイマー病モデル
- ラット大脳皮質初代培養細胞を用いた痙攣リスク評価
- ヒトiPS細胞を用いた痙攣リスク評価



コントロール



パーキンソン病モデル惹起物質添加

【SH-SY5Y細胞を用いたパーキンソン病モデル】

パーキンソン病モデル惹起物質添加で死細胞が多く見受けられる。